小学校における外国語教育の指導体制の充実

新学習指導要領全面実施に向けた取組

小学校外国語教育の特性を踏まえ、各学校の実態に応じて、 学級担任による指導と一定の英語力を有した教員による専科 指導を両輪として活かす。専科加配を効果的に活用するとと もに、英語教育推進リーダーや中核教員を中心に、 校内研修や授業準備等を推進。

中期的な方向性

小学校教員全体の外国語指導力の向上を図る とともに、<u>専科指導を担当できる一定の英語</u> 力を有し、より質の高い英語教育を行うこと ができる人材の採用も計画的に進める

小学校の外国語教育の特性を踏まえた質の高い授業の実施

- ○英語による言語活動を通した指導○音声中心の学習から段階的に読むこと、書くことにも慣れ親しむ○中学校への円滑な接続
- ○国語や我が国の文化についても理解 ○児童の不安を取り除き、失敗を恐れない雰囲気づくり ○各教科等の学習との関連付けなど

一定の英語力を有した 教員等による

専科指導

学級担任



ティーム・

ネイティブ・スピーカーや

英語が堪能な地域人材など **ALT:** Assistant Language Teacher

英語教育推進リーダー、 中核教員

> 専科加配教員 3,000人

, ※R3年度要求額(R2予算同

中・高の 英語教員 学級担任間の 授業交換※

※他学級の学級担任が授業を担当

交長のリーダーシップの下、

- ・各学校の実情に応じて最適な役割分担
- ・校内研修等は学校全体で取り組む

ティーチング・児童の発話を引き出す英語の提供 (教師との会話モデル提示、児童とのやり取りなど)

- ・異文化理解の促進
- ・児童のコミュニケーション意欲や学習意欲の向上



小学校の外国語教育の特性を踏まえた質の高い授業の実施

- 〇英語による言語活動を通した指導
- 〇音声中心の学習から段階的に読むこと、書くこと にも慣れ親しむ
- 〇中学校への円滑な接続
- 〇国語や我が国の文化についても理解
- 〇児童の不安を取り除き、失敗を恐れない雰囲気 づくり
- 〇各教科等の学習との関連付け など

「言語活動」とは

外国語活動や外国語科における言語活動は、記録、要約、説明、 論述、話し合いといった言語活動よりは基本的なものである。学習指 導要領の外国語活動や外国語科においては、言語活動は、「実際に 英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」活動を意味する。 したがって. 外国語活動や外国語科で扱われる活動がすべて言語 活動かというとそうではない。言語活動は、言語材料について理解し たり練習したりするための指導と区別されている。実際に英語を使用 して互いの考えや気持ちを伝え合うという言語活動の中では、情報 を整理しながら考えなどを形成するといった「思考力、判断力、表現 力等」が活用されると同時に、英語に関する「知識及び技能」が活用 される。 「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」(2017年 文部科学省)

高学年外国語「読むこと」「書くこと」の目標

外国語 第2節英語 1目標

- (2)読むこと
- ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することが できるようにする。
- イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が 分かるようにする。

(5)書くこと

- ア 大文字, 小文字を活字体で書くことができるようにする。 また, 語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な 語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。
- イ 自分のことや身近で簡単な事柄について,例文を参考に, 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて 書くことができるようにする。

高学年外国語 音声と文字

- 3 指導計画の作成と内容の取扱い
- (2)内容の取扱い
- イ 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して2の(1)のアに示す言語材料を指導すること。また、音声と文字とを関連付けて指導すること。
- 3 指導計画の作成と内容の取扱い
- (2) 2の容に示す事項については、次の事項に配慮するものとする。
- イ 音声指導に当たっては、日本語との違いに留意しながら、発音練習などを通して2の(1)のアに示す言語材料を継続して指導するとともに、音声指導の補助として、必要に応じて発音表記を用いて指導することもできることに留意すること。また、発音と綴りとを関連付けて指導すること。